



▲ステージ上から講演される相原先生。時折挟まれるユーモアに、客席からも笑い声が上がりました。

男女共同参画講演会

6月16日、山口県立大学の相原次男教授を講師に迎え、文化会館で平成19年度男女共同参画講演会が開催されました。演題の「支え合う あなたがきりり わたしがきりり」に沿って、「ここ数年、父の日のプレゼントに包丁とエプロンが選ばれることも多くなったんですよ。」等、その時代における「男らしさ 女らしさ」のあり方の重要性を語られました。



▲左から、深野良太くん（小4）、海上征久くん（小5）、深野翔太くん（小6）。全国大会も頑張ってます！

わんぱく相撲

6月10日、下関市でわんぱく相撲全国大会地区予選が開催されました。小学4～6年生の部に分かれて行われた同大会では、本市在住の深野くん兄弟と海上くんの3人が、それぞれの部で見事優勝を勝ち取りました。3人は、7月29日に両国国技館で行われる全国大会に出場します。夏休みの良い思い出となるよう、頑張ってきてね。

夢
いっぱい!

「交流したい農〜」
「うん、そりゃええ農〜！」



「交流したい農」を主催する
山陽商工会議所青年部会長
やまもと なおひと
山本 直仁 さん

太陽が照りつける午後の畑。額に汗を光らせて、それ以上に笑顔を輝かせて、さつまいもの苗植えに取り組む大人と子ども。山陽商工会議所青年部が主催する「交流したい農」が、いよいよ本格始動です。

山陽商工会議所青年部の平成19年度事業としてスタートした「交流したい農」は、「産・学・官」の一体化と大人と子どもの世代を越えた交流をコンセプトとしたプロジェクトです。表紙で紹介している出合小学校での交流を始め、有帆小、須恵小でもさつまいもの苗植えを行いました。また、9月には津布田小学校でじゃがいもの苗植えも予定されています。「交流をはかる方法は他にもあると思いますが、その中で形として残るものを手がけていきたい。」と話すのは青年部会長の山本さん。その言葉にあるように、芋の収穫からそれを使用した試作品づくりまでの一連の活動の中で、小学生だけでなく中高生とも交流をはかっていきます。中学生は、試作品のパッケージデザインを、厚狭高等学校食物文化科の生徒はレシピ作りから試作品製作までをそれぞれ担当します。全体的な取りまとめなど、陰で支える青年部のみなさんのご苦労も多いのではとの問いに「子どもと一緒に自分たちも楽しみながらやっているの、苦労は感じません。また、先生方の熱意も大きな励みになっています。主役はあくまで子どもたち。やって良かったと思うような『交流したい農』にしていきたいですね。」と期待感いっぱい話してくれました。試作品の発表会は来年2月を予定しており、同時にその試作品を商品化してくれる事業所も募集しているとのこと。世代を越えた交流は、一体どんな新しい味を生み出してくれるのでしょうか。今から楽しみです。



▲作業前に教室で自己紹介をする青年部のみなさん